

かけはし

日が沈む聖地出雲 ～神が創り出した地の夕日を巡る～

平成29年4月28日、出雲市が文化庁に申請していた「日が沈む聖地出雲」が日本遺産に認定されました。日本遺産とは、文化庁が地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝承を語るストーリーを「日本遺産」として認定するもので、平成27年から始まり今年で3年目を迎えます。

県内では、1年目に認定された津和野町の「津和野今昔百景図を歩く」、2年目に安来市・奥出雲町・雲南市の「出雲國たたら風土記 鉄づくり千年が生んだ物語」に続き、3件目となります。

ストーリーのあらすじ

神が創り出した海岸線

『出雲国風土記』冒頭の「国引き神話」では、巨大な神ヤツカミヅオミツヌが海の彼方から引き寄せた「国(土地)」が出雲平野北の山塊に、「綱」が平野の西を縁取る砂浜になったとされます。

西方の海に弓なりに開く海岸線は、滑らかな砂浜から岩肌がむき出しの荒磯へとダイナミックに変化していきます。まさに神業に例えられるにふさわしい景観であるとともに、夕日の絶景エリアとして人々に愛されてきました。



山の長浜と三瓶山

の霊が住まう宮を築くことを条件に国を譲りました。その宮こそ、今の出雲大社であり、『日本書紀』では日が沈む聖地に建てられた宮を意味する「天日隅宮」という名で登場します。かつて西へ開く出雲の海の玄関口で

稲佐の浜の夕日と「天日隅宮」

夕暮れ時の稲佐の浜は、紅に染まる空が弁天島のシルエットを際立たせる幻想的な光景が広がります。この周辺は「国譲り神話」の舞台と言い伝えられ、ここでオオクニヌシは自身の

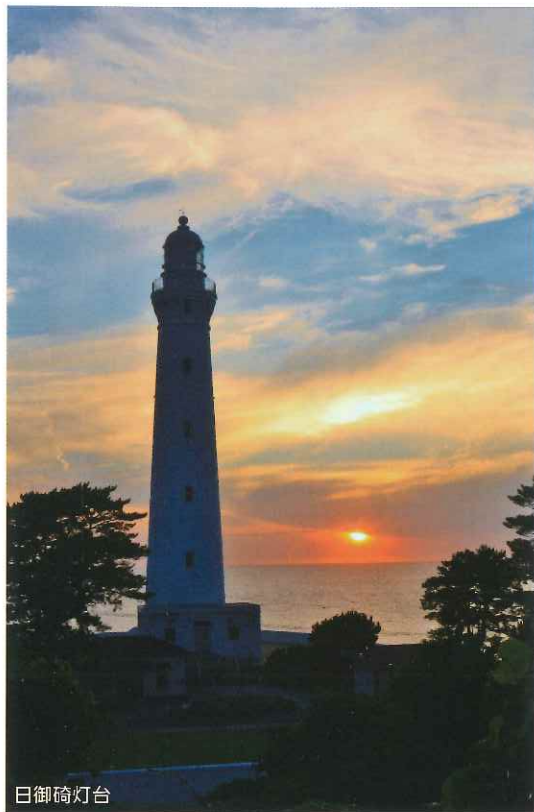
あつた稲佐の浜では、毎年旧暦10月10日に出雲大社の「神迎神事」が日没を待って執り行われ、全国から参集する八百万の神々をお迎えします。



稲佐の浜

目次

- 日が沈む聖地出雲
～神が創り出した地の夕日を巡る～ P1～2
- しまね留学 P3
- しまねびとりレー P4
- 市町村人会紹介 P5
- イベント情報 P6



日御碕灯台



経島

日御碕の夕日と「日沈宮」

奇岩や絶壁が複雑に入り組む日御碕は、その名のとおり、古くから「日」に縁がある岬として広く知られていました。今は、白垂の出雲日御碕灯台越しに沈む夕日と赤く染まる日本海が絵画のように映し出されます。

日御碕の西側に浮かぶ経島では、ウミネコのシルエットが夕日の美しさを引き立てます。また、毎年8月7日には「夕日の祭り」と称される日御碕神社の「神幸神事」が執り行われます。

この地に鎮座する日御碕神社には、スサノオを祀る「神の宮」とアマテラスを祀る「日沈宮」があります。日の出を象徴する太陽神アマテラスは、ここでは日の入りの夕日を象徴する神であり、日沈宮は日が沈む聖地の宮なのです。



ひしずみの宮



日が沈む聖地 出雲

古代、政権の中心だった大和から見て、太陽が沈む北西の方向に位置する出雲は、「日が沈む海の彼方の異界につながる地」として認識されていたと考えられます。

夕暮れ時の挨拶として今も使われる「ばんじまして」という方言からも、夕刻に特別な思いを抱く出雲の人々の心情が垣間見えます。

島根へお帰りの際は、美しい夕日とともに日が沈む聖地の祈りの歴史を体感できる出雲へ、どうぞお立ち寄りください。

お問い合わせ先

島根県出雲市文化財課

TEL 0853・21・6893

しまね留学

「島根県総合戦略」の各施策について紹介します。
 今回は基本目標3「しまねに定着、回帰・流入するひとの流れづくり」の中の
 「地域を担うひとづくり」の取り組みを紹介いたします。

しまね留学とは島根県外に住んでいる意欲ある
 中学生が、島根県の高校を受検し、入学し、島根県
 で充実した高校3年間をおくることをいいます。
 平成22年度から始まったこの取り組みは、現在
 では県立高校19校に広がり、県外からの入学生も



しまね留学説明会の様子

今年度は184名と、平成22年度に比べて3倍
 以上に増加しています。

しまね留学の魅力は、「過疎」という言葉が
 生まれた島根県だからこそ、超少人数教育で、
 一人ひとりの夢や思いを大切にできる教育ができ
 ることや、課題の最先端地域の、リアルな課題解
 決型学習を通して、思考力、判断力、表現力など
 を身につけることができることです。加えて、寮
 などでの親元を離れた不便も多い暮らしを通して
 て、学習や部活動に集中し、自立・協働・粘り強さ
 などの「生き抜く力」も身に付きます。

また、県内の生徒にとっても、県外の生徒は、
 新しい多様な文化・価値観を運んでくれ、適度な
 刺激や競争を生み出し、地元の魅力を再発見さ
 せてくれる存在となっています。

しまね留学をより知っていただくために、島
 根県では4年前から、毎年6月には、福岡・大阪・
 名古屋・東京で「しまね留学合同説明会」を、7月
 末には「バスでまわる！島根県の高校めぐり！」
 として、高校見学会を開催しており、今年はこのべ
 400名以上の方にご参加いただきました。

高校から始まったこの取り組みも、近年では
 「小中学生のしまね留学」として、小学校・中学校



大田市山村留学センターによるしまね留学の説明会の様子

にも広がってきています。「小中学生のしまね留
 学」では、家族と一緒に「留学」する形の募集もあ
 り、地域に「教育移住」という新たな人の流れを創
 り出してきています。

今後は、より多くの方が「自分らしい生き方」を
 選択し、受け入れる地域や学校にとっても、飛び
 込む生徒や送り出す親にとっても、価値のある
 「しまね留学」を目指していきます。

お問い合わせ先

島根県教育庁教育指導課

TEL 0852・22・6428

しまねびとリレー vol.17



この頁では、島根や関西で「島根」に関する活動をされている方々を紹介していきます。第17回目は大阪から益田市にUターンし、コミュニティデザイナーとして活躍している村岡詩織さんにお話を伺いました。

村岡さんのプロフィールをお願いします。



studio-L
村岡詩織さん

拠点を活動
しています。
プライ
ベートで
は、兵庫
丹波市生

コミュニティデザイナーとして働いています。耳慣れない仕事かもしれませんが、平たく言うとまちづくりの伴走者です。コミュニティの抱える課題を、ここに関わる人たちの力で解決するお手伝いをしています。そこにデザインの力を使って楽しさ、美しさ、有用さをもたらす、広く示していくことが役割です。大阪府吹田市にあるコミュニティデザイン事務所 studio-L に所属しながら、2011年から5年間、関西を中心に全国を飛び回る生活をしていました。2016年に故郷である益田市にUターンしたのは、島根県山口

まれの夫と、3歳と1歳の子供たちと4人暮らしをしています。



地域おこしのため会議をすすめている様子



空き家の解体を体験している様子

活動内容についてお話しください。

地方での暮らしに関心が集まり、地元回帰の気運が生まれてくるのを実感しています。自分たちの住むまちのことを今一度見つめなおし、これからのビジョンをどう描き、活動していくか。ヨソ者の視点・立場から、その伴走をお願いされることが増えてきました。

その際に大切に行っていることは、まちの人の声を徹底的に「聞く」。意見を構造的に「整理する」。アイデアや可能性を「引き出す」。計画書やビジョンを「書く・描く」。

住民にわかりやすい媒体を「作る」。もしくは対話の場を作って「伝える」。計画書に基づく活動を「企画する」。活動



すまいについて講義する村岡さん

する住民を「組織化する」。活動を支える専門家を「つなぐ」。こうした一連の流れで中長期的に地域を支えることで、主体的に、自立しながら地域を支え盛り上げる人(活動人口と呼びます)が増えていくことが喜びです。人口減少を悲観するのではなく、活動人口を増やすことで、暮らしはずっと豊かになります。

そのほかにも、個人事業主としてワークショップデザイナーを手掛けており、企業と社会人、行政と市民、会社の上司の方と新入社員など、異なる分野や立場の人同士の対話の場づくりも行っています。対話を通じて、地方でもアイデア創出や相互理解の機会を作ることができます。

島根への思いと県人会の皆さんへのメッセージをお願いします。

地元を好きになれない気持ちがある今の仕事との出会いとなり、不思議なことに今その地元で地域づくりの仕事をしています。故郷を思う気持ちを大切にしていただけたらと思います。



暮らし方研究所集合写真

studio-L
URL:<http://www.studio-l.org/>

こんにちは!

近畿大田市人会

です。

近畿地方で活動される市町村人会のご紹介です。
第16回は、近畿大田市人会のご紹介です。



近畿大田市人会
会長 田中公道

当会は、岩谷産業株式会社の創業者岩谷直治氏が、大阪府で活躍している島根県大田市出身者を対象に情報の交換と親交を深めて、企業の繁栄と大田市の発展に寄与する「大阪大田市人会」として、昭和33年2月に設立しました。以来毎年一回の総会を重ね、昭和51年4代目会長に就任した株式会社モリシゲ会長吾郷光夫氏は、企業者の会員枠を外して、大田市出身者とその縁のある全ての方々を門戸を開き、昭和63年には対象地区を近畿一円に広げ大田市に縁ある人々が一同に会することができる「近畿大田市人会」へと躍進しました。

また、大田市にも働きかけ、大田市長・市議会議長だけでなく、大田商工会議所などの各団体の方々も総会に招いて大田市との関係をより充実させ、移り行く故郷の情報を知り、ひとりごとが手になることも可能となりました。



懇親会の様子

大田市が平成の大合併で仁摩郡と合併したのを機に、5代目会長大野正人氏と関西仁摩会会長橋目福司氏の度重なる話し合いと会員への説得で、平成20年6月総会において、近畿大田市人会と関西仁摩会との合併が承認され、会員数も増え(514名)会員相互の情報網は大幅に拡充しました。

21年度に就任の品川隆幸現相談役と橋目福司新顧問、田中公道新会長は、世界遺産「石見银山」を抱える観光都市大田市をより広く知って

いただくため、会員に限らずその家族の皆さんにも懇親会参加の門戸を開きました。ふるさとをもっと会員の皆様を知っていただく為、平成22年より懇親会へ石見神楽など地元文化を招致するとともに毎年ふるさとの海産物、ゆかりの物品販売等盛り沢山企画しています。来年は6月23日(土)近畿大田市人会懇親会を予定しています。大田市に縁のある方ならどなたでも結構です。是非一度参加してみてください。



懇親会の石見神楽ステージ

近畿大田市人会

〒565-0824
大阪府吹田市山田西2-18 A4 102
事務局長 渡辺 公紀
TEL:06-6877-7191

関西エリアの島根県関連イベント情報!!

島根県関連のイベント情報をお届けします。

中国四国もうひとつのふるさと探しフェア

中国四国地方から9県が参加し、各県や市町村の担当者が地域の情報や移住支援制度をご紹介するほか、暮らしや住まい、仕事など様々なご相談にお応えします。

【日時】

平成29年11月25日(土)

【場所】

難波御堂筋ホール

大阪市中央区難波4丁目2-1

難波御堂筋ビルディング

【お問い合わせ先】

中国四国共同移住・交流フェア実行委員会

TEL:0857-126-7128

しまねU・イーターン相談会 in 大阪(しまね就業相談会)

島根県内の市町と関係相談機関の相談ブースを設け、島根県に興味のある方、移住を考えている方を対象に、しごと・住まい・農業等に関する情報提供・個別相談を行います。

【日時】

平成30年2月18日(日)

【場所】

梅田スカイビル

大阪市北区大淀中1-1-88

【お問い合わせ先】

(公財)ふるさと島根定住財団

U・イーターン推進課

TEL:0852-28-2690

新・農業人フェア

農業をやることに興味のある様々な方が気軽に情報を得られます。

また、独立に向けた具体的な道筋や、就職・転職先が見つつけられるイベントです。

※入場無料・予約不要・服装自由・入退場自由

【日時】

平成30年1月27日(土)

【場所】

大阪マーチャングाइズマート

A・B・Cホール

大阪府大阪市中央区大手前1-7-31

「お知らせメール」登録者募集中!

島根県大阪事務所では関西・東海地方において、島根県や県内市町村等が実施する「観光イベント、物産フェア、古代歴史文化講座、或いはU・イーターン説明会など」の情報を随時メールでお知らせしています。

【登録方法】は…

島根県大阪事務所

検索



事務局からのお知らせ

近畿島根県人会会員募集

皆様の周囲で当県人会に興味のある方がおられましたら、事務局までご連絡ください。活動内容や入会方法などをご説明いたします。

異動通知連絡票について

ご住所、ご勤務先等に変更等ございましたら、会報巻末の「異動通知連絡票」をご面倒でもご提出ください。また、記載事項に誤り等ございましたら事務局までご連絡ください。ご協力をお願いいたします。